

2020年3月

学術情報総合センター 2019年度教員アンケート調査の集計結果

概要

昨年度、学生の学術情報総合センター（以下学情センター）の利用減少の原因を探るため、学部学生・大学院学生を対象としたアンケートを行った。しかし、利用が大きく落ち込む原因の特定には至らなかった。今回のアンケートは、教員を対象に、学部学生の学習行動に関する質問を中心として行い、利用減少の原因をさらに探るとともに、今後の学術情報総合センターのあり方を検討する判断材料とする目的で実施した。

期間：2019年9月19日～11月15日

対象：本学に所属する教員（医学研究科、看護学研究科除く）

方法：Web アンケートフォーム（全学ポータル）

回答数：77

本アンケートの設問内容は大きく以下の5つに分けられる。即ち、(1) 回答者属性、(2) 学部学生の図書の貸出数減少について、(3) 授業やゼミでの図書館の利用について、(4) 学情センターの資料、推薦図書制度、講習会について、(5) 今後重要になると思われる図書館サービスについて、の5つである。

(1) 回答者属性

回答数は77件であった。この数は、全専任教員数の11%である。

文系研究科の回答率が高く、文学研究科が、回答数、回答率ともに最も高かった。

(2) 学部学生の図書の貸出減少について

図書の貸出利用減少の理由として、Web情報による影響をあげる教員が、回答数の87%であった。

また、多くの教員が貸出減少の現状に問題があると考えている（「大いに問題である」「やや問題である」が回答者の92%）。対処法として、「卒業研究・授業で図書の利用を促す指導」、「Webで得た情報の出典の確認を促す指導」等、教員側からの働きかけに関する意見が多く見られた。

(3) 授業やゼミでの図書館の利用について

学部学生の情報収集に関して、図書や雑誌論文の探し方について説明・指導を行っている

という回答が多かった。一方で、文献リスト、文献そのものを配布しているという回答も一定数あった。授業やゼミでの学情センターの利用については、半数以上が「使わない」という回答であったが、文献の探し方指導等を行っている教員は多く、図書館としてできることを周知し、教育支援の中で図書館に求められている役割の拡大を探っていく必要がある。

(4) 学情センターの資料、推薦制度、講習会について

学部学生に必要な資料が学情センターにあるかという質問に対し、回答者の80%から「まあ十分」以上の回答が得られた。不足している資料としては、最新版の図書、教科書の複本、新書などがあげられた。

学生用推薦図書については、「使っていない」という回答が半数以上であった。その理由としては「必要な資料は学情センターにある」が最も多かったが、「手続きが分かりにくい」等の回答も多く、この点について改善が必要である。(3)で授業内で文献リストを配布していると回答した教員が一定数いたが、学情センターではその情報を把握できていない。こういった情報を入手し、選書に反映していく必要がある。

図書館への講習会の要望については、「文献の探し方(OPACなど)」や「引用や著作権について」という回答が多かった。「必要ない」という回答は1件のみであったことから、学部学生を対象とした講習会への需要はあると考えられる。

(5) 今後重要になると思われる図書館サービスについて

2018年度アンケート(学部学生・大学院学生対象)で、充実してほしい項目の上位であった「インターネット環境」、「環境の快適さ」、「紙の資料」以外の図書館サービスを挙げ、今後学修支援において重要になるものを質問した結果、上位5つは、情報資源の提供(電子資料、eラーニングコンテンツ、映像資料)、空間としての図書館の利用(グループ学習のための施設、自習スペース)に関するものであった。

集計結果と分析

1. 回答者属性

Q1. 利用者区分

	回答数
本務教員	74
特任教員	2
非常勤講師	1
総計	77

Q2. 所属

	回答数	教員数	回答割合
経営学研究科	2	32	6%
経済学研究科	6	30	20%
法学研究科	10	33	30%
文学研究科	24	63	38%
理学研究科	10	111	9%
工学研究科	12	106	11%
生活科学研究科	3	45	7%
その他	10	313	
総計	77	733	11%

回答者が最も多い利用者区分は、本務教員で74件であった。

最も多い所属は文学研究科（24件）であり、工学研究科（12件）、法学研究科（10件）、理学研究科（10件）と続く。

各研究科の専任教員数¹（2019年5月1日時点）を参考として各研究科でのアンケートへの回答割合を見ると、文学研究科で38%と高く、ついで法学研究科（30%）、経済学研究科（20%）となっており、本アンケートについて文系の研究科での関心が高いことがわかる。

¹ 大阪市立大学企画総務課（2019）『大阪市立大学事業概要 平成31・令和元年度』, p.13.

2. 学部学生による貸出利用減少について

学情センターではアンケートの項目を設定するにあたり、図書の貸出利用が減少している理由はある程度推測がつくものの、学部学生を指導している教員との間で認識のずれがないかを確認したいと考えた。また、図書をじっくりと通読するという学習スタイルはもはや不要と考える傾向があるのかを知りたいとも考え、Q3 から 6 を設問した。

Q3. 近年、学部学生の図書の貸出が減少しています。理由として最もあてはまると考えられるものを一つお選びください。

	経営	経済	法	文	理	工	生科	他	総計
Web 情報だけで間に合わせる学生が増えた		2	7	14	8	8	3	8	50
Web から入手可能な学術情報が増えた		4	1	8	2	2			17
学生の自習時間が減った	2		2			1			5
学情センターから借りる以外の方法で図書を入手している								1	1
学情センターに必要な図書がない						1			1
図書を利用する課題が減った								1	1
その他				2					2
総計	2	6	10	24	10	12	3	10	77

学部学生による貸出利用減少の原因について、「Web 情報だけで間に合わせる学生が増えた」が最も多く、次に多いのは「Web から入手可能な学術情報が増えた」であった。Web による影響を上げる教員が全体の 87% を占めており、Web の利便性の高さやアクセスのしやすさによる影響と考えている回答者が多いことがわかる。

ただし、「Web から入手可能な学術情報が増えた」よりも「Web 情報だけで間に合わせる学生が増えた」が多いことから、学生には Web 情報だけでなく、そのほかの情報も利用させる必要があると考えている教員が多いことがわかる。後述の付録 A の中では学生による Web 情報利用の問題点として、信頼性が保証されていない点、出典を確認せずに使われて

しまう点、容易に入手できる Web 情報だけで情報探索をすませってしまう点、などが挙げられている。現代社会において Web 情報の活用能力は必須であるが、それを正しく活用するためのリテラシー能力も同時に身につけなければならない。図書館側からも図書館ガイダンス等を通して、信頼性の保証された Web 情報の検索方法や参考文献の引用方法、Web 情報とともに図書館の資料を利用することの利点を伝えていくことで、学生の情報リテラシー能力の向上に貢献できる部分があると考えられる。

「その他」を選んだ回答者の Q4 での具体的な記述を見ると、「Web やネットが幼い時から身近であった学生が増え、また各情報に対して深く継続的な問題意識を持たなくなっている傾向が高まったため。」「図書を利用する課題が減った+学生の自習時間が減った（一つに絞ってはいけません）」という意見があった。

Q5. 学部学生の図書の貸出が減少していることをどう思われますか？

	経営	経済	法	文	理	工	生科	他	総計
大いに問題である	2	2	7	11	3	6	1	3	35
やや問題である		2	3	13	5	6	2	5	36
あまり問題ない		2			2			2	6
全く問題ない									0
総計	2	6	10	24	10	12	3	10	77

学部学生の貸出利用が減少している現状について問題があるか否かについて質問したところ、回答者のうちの 92%が貸出利用の減少を問題であると回答し（「大いに問題である」35件、「やや問題である」36件）、「全く問題ない」は0件であった。

加えて Q6 として、「全く問題ない」「あまり問題ない」と回答した場合はその理由について、「やや問題である」「大いに問題である」と回答した場合はその対処法について質問した。その結果は以下のとおりである（詳細については付録 A）。

「あまり問題ない」と回答した回答者からは、良質な情報を Web で検索できるようになったから（2件）、時代の流れであるから（2件）、図書を館内利用している学生もいるから（1件）という回答が得られた。

「やや問題である」「大いに問題である」と回答した回答者からは、以下のような意見が得られた。まず、貸出利用減少への対処法として、(a) 卒業研究・授業で図書の利用を促す指導を行う（30件）、(b) Web で得た情報の出典を確認させるように促す指導を行う（8件）、(c) 図書館が時代の変化に対応する必要がある（2件）、(d) 図書館の蔵書を充実させる（2件）、という4つの意見が得られた。(a)、(b) のような、教員側の指導によって図書の利用

を促すという意見が多く見られた。また、必ずしも図書を使わないことが問題ではないとしながらも、全ての情報が Web で得られるわけではなく、図書を含めた多様な情報源や資料にアクセスできるよう指導する必要があると考えている意見（11件）もあった。

その他に貸出利用減少の要因として、スマホのカメラでの撮影による図書の利用や教員による授業資料の配布が行われていること、図書の一部分だけを利用する学生が増加、ネット経由での教科書の古本での購入の増加などを挙げる意見があった。

3. 授業やゼミでの図書館の利用について

Q7. 学部学生への授業やゼミの中で、資料・情報収集についてどのように指導・指示されていますか？(複数回答可)

	回答数
図書や雑誌論文の探し方について説明している	46
図書や雑誌論文等を使うよう指導している	45
文献リストを配布している	37
必要な文献・資料は配布している	28
オープンアクセスの文献を入手できるようリポジトリや CiNii を紹介している	27
特定の Web サイト(学会 HP 等)をチェックするよう指示している	2
特に指導・指示していない	2
指導の機会がない(授業・ゼミを担当していない等)	0
その他	2

学部学生への情報収集に関する指導方法について質問した結果、「図書や雑誌論文の探し方について説明している」が最も多く、次に僅差で「図書や雑誌論文等を使うように指導している」であった。また、「オープンアクセスの文献を入手できるようリポジトリや CiNii を紹介している」という文献の探し方について細かく指定した選択肢に対しても回答が 27 件あった。文献の探し方の指導を行う教員や、学生に文献を使うように指導する教員が多いことがうかがえる。

一方で、「文献リストを配布している」(37 件)、「必要な文献・資料は配布している」(28 件)のように、文献の探し方については授業やゼミでは扱わず、使う文献を指定・配布している教員も一定数いることがわかった。効率的な授業運営を考えれば当然であり、そこに授業支援の形で学情センターが介在する余地があるかを探っていく必要がある。

また、「Q8.Q7 について、具体的な内容を可能な範囲でご記入ください。」の結果は付録 B に掲載している。

Q9. 学部学生への授業やゼミで学情センターを利用されますか？利用される場合は、場所や使い方をお答えください。(複数回答可)

	回答数
使わない	48
学情センターに講習会を依頼する	13
教室（9F 情報教育実習室、6F セミナールーム）	12
館内を案内する	7
情報検索端末(2F)や OPAC 端末で検索指導を行う	6
ラーニングコモンズ(5F)	4
館内で資料を使って授業やゼミを行う	3
アカデミックコモンズ（6F）	2
ツクルマ(1F)	2
その他	4

授業等での学情センターの利用方法について質問をした結果、最も多かった回答は「使わない」(48件)であった。「使わない」を除いて、最も多い利用方法は「学情センターに講習会を依頼する」(13件)であり、次に多いのは「教室」(12件)で授業教室としての利用であった。

「使わない」という回答が半数以上であったが、Q7では図書や雑誌論文の探し方について指導したり、文献リストの配布を行ったりしている教員が多いことから、間接的に学情センターの利用を促しているとも言える。学情センターとして協力可能なことを教員に周知し、講習会や授業での施設利用に対する柔軟かつきめ細かい対応を行うことで、さらに利用を促進できるのではないか。

4. 学情センターの資料、推薦図書制度、講習会について

Q10. 学部学生に必要な図書は学情センターにありますか？

	経営	経済	法	文	理	工	生科	他	総計
十分		2	3	4	2	2	1	3	17
まあ十分		4	6	18	5	6	1	5	45
やや不足	1		1	2	2	2	1	1	10
不足	1					1			2
わからない					1	1		1	3
総計	2	6	10	24	10	12	3	10	77

学部学生に必要な資料が学情センターにあるか質問したところ、「十分」(17件)、「まあ十分」(45件)と全体の80%から、まあ十分以上の回答を得た。

また、Q10を受けて、学情センターに不足している資料としてどのようなものがあるか質問(Q11)したところ、専門書という意見が多く、それぞれ分野は異なるが9件の回答があった。他に、最新版の図書や新刊(3件)、教科書類の複本(2件)、新書(2件)などの意見があった(詳細に関しては付録C)。

不足していると捉えられている資料が学情センターにないわけではなく、学部学生に読ませたい時に利用できない(登録作業中や貸出中)という状況も考えられる。予算の限界で複本の購入が減っていることは否めないが、新刊購入から利用提供までのスピードアップを図ることや、延滞が発生しない電子ブックの積極的購入なども含めて、ニーズに応える努力をしていかなければならない。

Q12. 学生用推薦図書制度を使われていますか？

	経営	経済	法	文	理	工	生科	他	総計
使っている	1	3	4	13	3	7		3	34
使っていない	1	3	6	11	7	5	3	7	43
総計	2	6	10	24	10	12	3	10	77

学生用推薦図書制度について質問したところ、「使っている」(34件)、「使っていない」(43件)という回答を得た。

使っていないと回答した場合にその理由を尋ねた(Q13)ところ、回答が最も多かったの

は「必要な資料は学情センターにある」で14件であった。しかし「手続きがわかりにくい」(8件)、「知らなかった」(8件)、「面倒」(5件)などの理由もあり、利用を促進するためにはこれらの点について改善が必要である。

Q14. 学部学生に対して、図書館にどのような講習会を希望されますか？(複数回答可)

	回答数
文献の探し方(OPAC、データベース等)	59
引用や著作権について	39
図書館の使い方	34
ネット情報の探し方や評価	32
レポートの書き方	22
文献情報の管理(EndNote basic 等)	19
必要ない	1
その他	4

図書館への講習会の要望について質問したところ、最も回答が多かったのは「文献の探し方(OPAC、データベース等)」であった。また、「引用や著作権について」という回答も多く、過半数を超えている。

逆にレポートの書き方や文献情報の管理のような、研究に関わる部分の指導に関しては図書館に求められている役割としては小さいことがわかる。また回答として最も少ない「文献情報の管理(EndNote basic 等)」でも19件を超えており、「必要ない」が1件であることから、情報検索に不慣れな学部学生を対象とした講習会への需要はあると考えられる。

近年、自由参加の講習会に参加する学部学生が少ないことから、授業との連携をさらに強めつつ、授業時間を消費しない形で受講してもらえるeラーニングコンテンツの作成・提供に取り組むなど、内容の見直しを進めていきたい。

5. 今後重要になる図書館サービスについて

学部学生・大学院学生を対象として行われた 2018 年度利用者アンケートにおいては、今後充実して欲しい項目の上位が「インターネット環境」、「学情センター内の環境の快適さ」、「紙の資料」であった。今回は、それ以外の図書館サービスで今後重要になると思われるものについて教員にも質問した。

Q15.学生アンケートでは、学情センターで今後充実して欲しい項目として、「インターネット環境」「環境の快適さ」「紙の資料」が上位でした。それ以外で、学修支援において、今後いっそう重要になると思われる図書館サービスを3つお選びください。

	回答数
電子資料（教科書の電子ブック等）	41
グループ学習のための施設	28
eラーニングコンテンツ(文献の探し方等)の提供	24
自習スペース	21
映像資料	20
窓口での相談	17
自習用パソコン	16
講習会	10
授業への出前講習(授業連携ガイダンス)	8
SNS等による相談	6
その他	10

この結果から、大きく分けて以下の2つが図書館サービスとして重要になると思われると考えられる。即ち（1）電子資料やeラーニングコンテンツ、映像資料などの情報資源の提供、（2）グループ学習のための施設、自習スペースのような空間としての図書館の利用、の2つである。これらは今後重要になる図書館サービスのうちの上位5つを占めている。

それらの下に（3）窓口やSNSでの相談などのレファレンスサービス、（4）自習用パソコン、（5）講習会や授業連携ガイダンス、が続く。Q14も併せて考えると、講習会に関しては必要がないわけではないが、全体としてみたときの優先順位は低いと考えられる。

また、回答「その他」の具体的内容としてQ16に書いてもらったところ、洗練されたデザインのレストラン、学情センターにできることの発信、他大学の学生が書いた論文の検索、大学図書館としての研究教育との連携、より進んだ情報検索に関する講習会、統計処理ソフトの使用方法に関する講習会、文献引用に関する倫理教育、開館時間の延長などの意見が

あった。図書館デザインに関する意見などは、新大学での図書館のあり方を検討するうえでも参考にすべきものである。

Q15 の回答で上位にあがった項目は、今後どこに予算を投入すべきかを示す指針のひとつである。特に情報資源については、印刷資料以外の多様な形態の資料についても充実を図っていく必要があり、どのような内容のものを購入するか、選定には教員との連携が欠かせないものと思われる。

【教員アンケート】学部学生の図書館利用に関するアンケート

学部学生についてお答えください。

いただいた回答は、個人が特定できないように利用します。なお、自由記述の内容は、学内で共有させていただく場合がありますので、ご了承ください。

Q1. 利用者区分 ※

- 本務教員 特任教員 非常勤講師 その他

Q2. 所属 ※

- 経営学研究科 経済学研究科 法学研究科 文学研究科 理学研究科 工学研究科
生活科学研究科 都市経営研究科・創造都市研究科 その他

Q3. 近年、学部学生の図書の貸出が減少しています。理由として最もあてはまると考えられるものを一つお選びください。 ※

- Web から入手可能な学術情報が増えた
学情センターに必要な図書がない
図書を利用する課題が減った
Web 情報だけで間に合わせる学生が増えた
学情センターから借りる以外の方法で図書を入手している(購入、共有等)
学生の自習時間が減った
その他

Q4. Q3 で「その他」と回答された方)具体的な理由をご記入ください。

(自由記述)

Q5. 学部学生の図書の貸出が減少していることをどう思われますか? ※

- 大いに問題である やや問題である あまり問題ない 全く問題ない

Q6. Q5 の回答について、「大いに問題である」「やや問題である」とされた方はどう対処すべきか(しているか)を、「あまり問題ない」「全く問題ない」とされた方はその理由をご記入ください。

(自由記述)

Q7. 学部学生への授業やゼミの中で、資料・情報収集についてどのように指導・指示されていますか?(複数回答可) ※

- 図書や雑誌論文の探し方について説明している
文献リストを配布している
必要な文献・資料は配布している
オープンアクセスの文献を入手できるよう、リポジトリや CiNii を紹介している
図書や雑誌論文等を使うよう指導している
特定の Web サイト(学会 HP 等)をチェックするよう指示している(サイトを Q8 にご記入ください)
特に指導・指示していない
指導の機会がない(授業・ゼミを担当していない等)
その他

Q8. Q7 について、具体的な内容を可能な範囲でご記入ください。

(自由記述)

Q9. 学部学生への授業やゼミで学情センターを利用されますか？利用される場合は、場所や使い方をお答えください。(複数回答可) ※

- 教室(9F 情報教育実習室、6F セミナールーム) ラーニングcommons(5F)
 アカデミックcommons(6F) ツクルマ(1F)
 館内を案内する 館内で資料を使って授業やゼミを行う
 情報検索端末(2F)や OPAC 端末で検索指導を行う
 学情センターに講習会を依頼する
 その他 使わない

Q10. 学部学生に必要な図書は学情センターにありますか？ ※

- 十分 まあ十分 やや不足 不足 わからない

Q11. 学情センターに不足していると思われる資料(分野、レベル等)があればご記入ください。
(自由記述)

Q12. 学生用推薦図書制度を使われていますか？ ※

- 使っている 使っていない

Q13. Q12 で「使っていない」と回答された方使っていないのはなぜですか？(複数回答可)

- 必要な資料は学情センターにある 手続きがわかりにくい
 利用可能まで時間がかかる 面倒 知らなかった その他

Q14. 学部学生に対して、図書館にどのような講習会を希望されますか？(複数回答可) ※

- 図書館の使い方 文献の探し方(OPAC、データベース等)
 ネット情報の探し方や評価 文献情報の管理(EndNote basic 等)
 引用や著作権について レポートの書き方 その他 必要ない

Q15. 学生アンケートでは、学情センターで今後充実して欲しい項目として、「インターネット環境」「環境の快適さ」「紙の資料」が上位でした。それ以外で、学修支援において、今後いっそう重要になると思われる図書館サービスを 3 つお選びください。 ※

- 電子資料(教科書の電子ブック等) 映像資料
 自習スペース グループ学習のための施設 自習用パソコン
 窓口での相談 SNS 等による相談
 講習会 授業への出前講習(授業連携ガイダンス)
 e ラーニングコンテンツ(文献の探し方等)の提供 その他

Q16. Q15 で「その他」と回答された方具体的な内容をご記入ください。
(自由記述)

Q17. 学修支援に関して、学情センターへのご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。
(自由記述)

○ 本アンケート内容について、より詳しくご意見をうかがいたい場合にご協力いただける方は、お名前・連絡先(メールアドレス)をご記入ください。

※は必須項目